

全国高等学校PTA連合会東京大会 参加レポート（表面の続き）

【基調講演】

基調講演ではトヨタ自動車会長の張富士夫氏が講演されました。

最近の社員に対しての印象は、『①競争に慣れていない』、『②人間関係が希薄』とのことでした。

張会長は、法学部卒業で、自分は事務系が専門であるという意識を持っておられましたが、入社時の配属は自分が思っていた専門分野とは全く異なっていた事を明かされました。新入社員として各職場を体験した後は、会社の広報、新工場建設の為に用地買収交渉、車のモデルチェンジの準備としての生産管理、トヨタ自動車工業とトヨタ自動車販売との統合、その後米国トヨタへ、という仕事を歴任されました。

用地買収の時には、350人くらいの地主の中の10人にどうしても買収に応じてもらえず、田んぼの中へ長靴を履いて日参し、地主との信頼関係を築いて、やっと応じてもらえたそうです。

生産管理を命じられた時には、自分は事務屋であるからこの仕事は無理であると上司に訴えたそうですが、とにかくやってみろと言われて、作業着を着て工場へ入る毎日を過ごしたそうです。そのうちに、工場の作業の中に、台所での調理のように同時進行させられる点がある事に気がついて作業の改善に結びついたそうです。

また、別の工程では作業が進んでは止まり、進んでは止まり、ということを繰り返しており、これはまるで『ウサギとカメ』のお話のように、早いように見えても実はカメの方が早いということになっているのではないかと思います、これも改善に結びつけたそうです。

そのような御自身の経験を基に、これからの社会人たる高校生に対して提言がありました。

- 1、まず実践してみる事が大切である。良いと思ったことは教わっていないことでもすぐにやってみること。実社会は理論で動いているのではない。現地現物を大切にせよ。「※百見は一行に如かず」であり、知識と実践が相互に作用しながらレベルアップしてゆくのである。
- 2、実社会では汎用性が重んじられるその人の適性は自身が判断するのではない。様々な仕事を体験させてから会社が判断するのである。
- 3、体を動かすことを厭うな。何事にも腰を軽くして動くことで、上司、同僚の信頼が得られるものである。
- 4、チャレンジ精神を持て。何事も勉強であり、経験を積む事になる。そして失敗を恐れてはいけない。試合度胸も大切である、これはスポーツから得られるものが多い。文武両道という基本は昔も今も変わらない。
- 5、人との付き合いを大切にせよ。何事も一つのチームとして取り組んでゆくのである。基本は「敬意」を持って相手に接することである。
- 6、勉強だけでなく、文化活動や社会貢献を進んで行うこと。このプラスアルファの活動が社会に出てから役立つのである。

※『百聞は一見に如かず』に対して、経営者としての実体験から、対句として考案された言葉です。ある事について百回見たり、聞いたりするよりも、実際に自分自身で行って見る事のほうが優っているという意味です。

【分科会】

午後は会場を移動しての分科会に参加しました。私達が参加した分科会の会場である東京大学安田講堂は参加希望が殺到したそうですが、運良く参加させて頂く事ができました。

『生徒指導とPTA』――今、求められる規範意識とは何か？――とのテーマで4つの学校のPTA会長から実践事例の発表がありました。その内の2校について紹介します。

都立足立東高校は、平成15年には地域から廃校署名運動が起きるほど荒れた学校になってしまっており、最悪時には入学者の半分も卒業出来ない状態だったそうです。そこで学校とPTAが立ち上がり『エンカレッジ』（勇気づける、励ます、力づける）をテーマに学校の復活に取り組んだことが紹介されました。思い切った制度の取り入れ（30分授業、2人担任制）を行い、校内清掃や花植えに取り組み、学校の正常化を果たした実体験を紹介してくださいました。

山口県では、県の高校再編計画により普通高校、農業高校、水産高校の3校が統合されることになり、統合に向けたPTAの取り組みが紹介されました。まだ統合作業は道半ばであり、こうなりましたという結論のお話ではありませんでしたが、終わりに3校の会長が壇上で堅い握手を交わし、涙しておられた姿はとても印象に残りました。（松本守信）